

平成28年度 事業計画(成果)

1 全般成果概要

平成28年度方針のもと会長を核心とした各グループの各事業への積極的な取り組みと、県・支部・会員の一体的な活動により所期の成果を収めた。

ただし、会盛拡大施策については、即日入会会員の減少や退会会員(逝去会員を含む)も多く会勢の増大は出来なかった。各支部の特性に応じ更なる日常活動の充実により会勢の拡大と充実が重要と思われる。

(1) 総務・組織の事業総括

ア 会勢の充実・拡大

(ア) 正会員

入会者数 55名 (陸46、海5、空4)

(イ) 会員の定着率向上

・入会1年未満の退会抑制と定着率の向上を図るため、「パートナー制度」を設けて推進中

イ 組織の改編・強化

(ア) 新支部等の結成促進(新規無し)

奄美地区及び湧水・阿久根地区の活性化を重視

(イ) 役員後継者の育成・登用

幹部出身の偏り是正の為・曹出身者の登用に留意

ウ 会務運営の効率化

(ア) 定期総会成果 5. 22(日)

総会、防衛講話、懇親会の3部構成

(2) 市民・防衛・広報の事業総括

ア 防衛意識の高揚

(ア) 定期総会時の防衛講話139名参加

(イ) 安全保障フォーラム(10.22)300名参加

(ウ) 奄美セミナー(宇都参議院議員講師)

奄美市&瀬戸内町で実施230名参加

(エ)九州・沖縄ブロック研修会(11.26~27)

沖縄大会に会長以下30名参加

・防災ボランティア活動の取り組み

について村山会長発表

イ 防災・国民保護施策等に対する協力

(ア) 自治体との災害時応援協定締結

・始良支部、隼人支部

(イ) 自治体との防災訓練等に参加

・県総合防災訓練(日置市)

会長以下13名(伊集院支部含む)

・桜島火山爆発総合防災訓練

図上訓練に会長以下12名参加

・県国民保護共同実動訓練

(3) 部隊等支援・協力諸団体・親睦

ア 部隊等支援

(ア) 訓練・国際貢献活動・災派等の協力支援

・激励金の贈呈

1空群のソマリア沖海賊対処活動

(出国7.27、帰国8.12 鹿屋基地)

12iの米国での米陸軍との実働

訓練(雷神)出陣式

(イ) その他の自衛隊活動支援

・スポーツ大会等活動支援

(祝い金の贈呈、祝勝会参加)

国分駐屯地 (12i)

・全自銃剣道能美大会優勝

・全自柔道大会優勝

・師団武道大会総合優勝

(ウ) 部隊等との交流の拡充

・意見交換会の実施

鹿地本、国分、鹿屋、川内

・賛助会員への広報

各駐屯地等設置の「隊友会

PRコーナー」に「隊友さつま

(新聞)」等を掲載

イ 予備自衛官等の支援

(ア) 記念品等の提供(招集訓練時)

・体力検定・射撃優秀者へ付与

・参加者全員に記念タオルの配布

ウ 殉職隊員等の慰霊顕彰・援助

(ア) 殉職者慰霊

・県出身殉職者慰霊祭

10. 8 県護国神社にて開催

・各基地等追悼式に県会長等参加

エ 親睦・福祉厚生

(ア) デイフェンスさつまゴルフ大会(10.1)

46名参加(グリーンヒルCC市比野)

(イ) グラウンドゴルフ大会(11.23)

・39個チーム193名 (吉野公園)

隊友会最大行事に定着



県相談役 川畑初夫氏

貴方の顔は今
輝いています

県隊友会長を下番して
早や2年、隊友会を構成
している会員の境遇を考
えてみました。
年金生活主体の会員、
まだまだ現役で仕事をし
ている会員に大別。この

「区分の中で余暇に隊友会活動にお手伝い頂く会員、自分の所属する会に心血を注ぎながら隊友会活動にもお手伝い頂く会員、また自分を磨くため本を読み趣味の世界を広げながら会費を払って頂いている会員。これらを考えながら、人は何のために生きるのかに思いを巡らしてみました。以前読んだ本に、鹿屋出身で京セラの創始者稲盛和夫さんの生き方があります。その中で

稲盛さんは、人間が生きている意味、人生の目的はどこにあるかを自身に問い、心を高めること、魂を磨くことと答えておられます。『この世へ何をしにきたのか』と問われたら、迷いもてらいもなく、生まれた時より少しでもまじな人間になることであると。私は、鹿屋島に帰省早々この本に巡り合い非常に感銘を受けました。まさに人間になるには、今何を為すべきかを考えた時、人に頼まれたら断るまいと決め、色々な係を

やらせて頂きました。隊友会長下番後も隊友会行事に参加することに意義を見出し、所属する郷友会では美しい日本を取り戻すための新聞作りを生甲斐を感じ、色々な講演・講座に参加してまち歩きガイドの幅を広げお客様が喜ばれると心の充実を覚えます。そしてこれらが精一杯出来るように、かつ好きなゴルフが80才になってもできるような週に5、6日コンディショニングジムTRYに通い1年が過ぎました。おかげさ

でまち歩き2時間も苦になりません。さて、隊友会員皆様の生きる目的は何ですか。色々あると思いますが、端的に表現すれば好きなことをやりピンピンコロリと逝くことではないでしょうか。恐らく万民共通の目標でしょう。その為にどう生きるかが大事ではないでしょうか。何もなくても死ぬます。どうせなら人のため世のため何かをやり自分の魂も磨き、死ぬ間際に私は私の人生に満足と思えれば良いですね。その為には身体を鍛え自分の足で歩くことが大事です。

皆さんはもう○才ではなくまだ○才です。まだ遅くありません。引き籠らず自分を磨くため出歩き世のため何かを為し、夜が明けたら輝いた顔を周囲の人に見せようではありませんか。コロナのために。相談役(前隊友会長) 川畑初夫 記



◆発行 行◆
鹿児島県隊友会

◆発行責任者◆
村山文彦

◆印刷◆
(株)新生社
鹿児島市七ツ島

合同賀詞交歓会盛大に開催 防衛協力諸団体

1月29日鹿児島市の床の間と言われる城山観光ホテルにおいて、鹿児島県防衛協会会長に新しく就任された三反園訓鹿児島県知事のもと、平成29年防衛協力諸団体合同賀詞交歓会」が開催され、鹿児島県隊友会も村山会長以下役員・支部長等の有志が主力団体として出席し大いに盛り上げた。本交歓会は例年通り、自衛隊鹿児島地本の全面

的支援の下整齊かつ円滑に進められた。出席者は、県選出の国会議員・県議会議員・市議会議員、国・県・市町村の行政関係者、県内所在の部隊指揮官及び防衛協力諸団体の関係者が多数参加し、盛大に開催された。

開会宣言に引き続き、全員により声高らかに国歌斉唱した後、発起人を代表して出席者注目の中初顔の鹿児島県防衛協会会長三反園訓知事の挨拶の後、国政の場で鹿児島県人ここにありと活躍中の衆議院議員保岡、金子、野間各先生、参議院議員尾辻、野村、そして私共の代表である宇都各先生」からの祝辞、次いで県内所在部隊を代表して海自第1航空群司令市田海将補」から日頃の支援・協力に対する御礼と協力諸団体に対する期待が述べられた後、出席

の各地方自治体首長、県議会議員・市議会議員、防衛協力諸団体長等の紹介、祝電披露と会次第は進み、鹿児島県隊友会村山会長」の熱い思いのこもった音頭により声高らかに乾杯が行われた。待ちに待った歓談は、出席者それぞれが互いに胸襟を開き、次々と出される城山観光ホテル自慢の料理もそこそこに、焼酎とグラスを片手に各テーブルを廻って名刺交換をする等垣根を越えて和気あいあいと語り合い、大いに懇親の実が上がった賀詞交歓会となった。

締めは、父兄会から家族会に名称変更となった公益社団法人自衛隊家族会鹿児島県自衛隊家族会伊藤正夫会長」の発声による万歳三唱で名残は尽きない中、盛会のうちにお開きとなった。

平成29年においても本団体の主力たる鹿児島県隊友会役員として、更なる拡充を図るため、地道かつ確実な活動に努めるべく強く誓った次第である。

1 G P 副会長 川原道治 記

最後に「君が代」を斉唱して行事は終了した。県本部事務局次長 後藤光一 記

今、”ボランティア”時代とも言われています。英語辞書で引くと「志願兵」にも訳され、私たちは、国防という崇高なボランティアに従事した仲間ともいえます。▼公益社団法人になり、6年目になりますが、災害ボランティア活動と旧軍施設の清掃・慰霊顕彰活動を公益活動の2本柱として位置付け、活動中です。災害ボランティアについては、川畑前県会長が、退官後(株)総合防災ソリューションに勤務されたこともあり、県との防災協定締結や活動マニュアルを作成するなど基盤を整備され大きく貢献されました。▼昨年度、桜島災害図上訓練や日置市での県総合防災訓練・垂水市での国民保護訓練の3つの訓練に総勢50人の会員が参加し、昔取った杵柄」で、災害対策本部運営要員や交通統制要員などとして活躍、昨年2月の南日本新聞掲載記事「防災のプロ」存在感じわり」を実践出来たものと自負しています。

今年の県防災訓練は5月種子島3個支部の皆さんよろしく願います。災害は忘れた頃にやってくる」と言います。情報ネットワーク加入している方、貴重な情報通報を！

鶴嶺神社は、本年も鶴嶺神社宮司で島津家32代当主島津修久氏のお招きで初詣の参拝をいたしました。

本殿への参拝ののち、日露戦争で日露両将軍の会見で有名な水師営から乃木将軍が持ち帰ったといわれる榎の木三代目とされる境内の榎の木を

鶴嶺神社初詣参拝後の参加会員達

最後に「君が代」を斉唱して行事は終了した。県本部事務局次長 後藤光一 記

鶴嶺神社は、本年も鶴嶺神社宮司で島津家32代当主島津修久氏のお招きで初詣の参拝をいたしました。

本殿への参拝ののち、日露戦争で日露両将軍の会見で有名な水師営から乃木将軍が持ち帰ったといわれる榎の木三代目とされる境内の榎の木を

鶴嶺神社初詣参拝後の参加会員達

最後に「君が代」を斉唱して行事は終了した。県本部事務局次長 後藤光一 記

桜島火山爆発総合防災図上訓練に参加 県事務局次長 後藤光一

県隊友会は、平成28年12月20日（火）桜島火山爆発総合防災訓練（図上）に、初めてコン



訓練参加中の会員

トローラー 評価班及び状況付与班）要員として村山県会長以下14人が参加した。

講堂において関係機関との連携などを主要演練項目として演練し、練度向上を図った。

訓練終了後、村山会長が評価チェックリストに基づいた所見について講評した。

また京都大学防災研究所の井口教授は、地下のマグマだまりが膨張を続けており訓練の役立つ日はそう遠くないと指摘し訓練の幕を閉じた。

県事務局 後藤光一 記

「宝暦治水工事」の紹介 介人支部 石神民男氏

十三 洪水を防ぐ水行工事（川の水流を変えて洪水を防ぐ）

（一） 三の手

十二 犠牲者続出
（二） 夏から秋 季節的には、台風大雨洪水が多発し、春普請で完成した箇所も流されその修復に多大の資材と体力を要した。数十km上流からの資材運搬は、体力を消耗させるとともに、一汁一菜の貧弱な食事では、体力もつかず疲労困憊の上生水を飲料したため、下痢症状が多発し、多くの犠牲者と更なる切腹者を出した。記録によると割腹36人、病死16人犠牲者の六割がこの時期に集中している。

ア 人数増派要請
藩主重年公の現地激励後、平田奉行は国元へ現況報告と人数増派を要請した。内訳は、徒步行48人、徒步行本小屋番人10人、足軽44人の合計102人であった。

- イ 第二期普請資材
- ・石材：2万坪(116,640㎡) 5.8㎡/坪
 - ・木材：3.5間×1尺4寸 120,743本
 - ・竹目通：5寸～6寸 1,728,709本
 - ・葉付目通：4寸～5寸 14,335本
 - ・砂利：203,403坪(1,186,246㎡)
 - ・藤蔓：10,501本

越戦の囲碁大会

事務局長 就任の抱

県隊友会は、国分・隼人両支部の管理支援を受け、2月12日国分福祉センターで第7回囲碁大会を会員・家族等44人の参加を得て実施した。

前日の大雪のため悪路を早朝から駆けつけた入来支部、喜入支部の会員もいた。

今回は、地元テレビ局の取材があり、隊友会の活動をテレビを通じ県民に紹介された。



熱戦が続く対局の様子

対局は熱戦また熱戦と続き大盛会となり、予定時間を大きくオーバーして終了し、来年度の再会を約束して散会した。

成績紹介 4段以上の部 優勝 木下俊郎（一般） 準優勝 横手修 隼人 3段以下の部 優勝 下池混 国分 準優勝 吉田豊昭 国分 県常務理事 佐藤博 記

越えて流れるように設計（二） 四の手の、油島の築堤は、三川の合流点で川底の高低差が二・六mもあり、渦巻き激流の状態であった。

この工事は、大難工事で寛延三年（1750年）から明和五年（1768年）まで幕府が、各藩にお手伝い普請を命じて完成させている。中間付近に開口部を設けたのは、完全に締め切ると洪水が左岸方向（尾張藩領）に押し寄せる弊害があるためであった。

城山の薩摩義士碑

記

お知らせ

◎ 遺族共済年金・遺族厚生年金請求手続きに必要な書類

年金受給者に失権事項が発生した場合は、年金部給付第二課第3係又は年金相談室に失権事由等通知書を提出、又は03-3265-8141に（電話の場合は、遺族が）連絡し、請求手続き用紙を送ってもらって、書類を提出請求する

1 遺族共済年金関係提出書類

- (1) 遺族共済年金決定請求書
 - (2) 遺族に関する申立書
 - (3) 公的年金等の受給に関する申立書
- 以上3つの書類は申出をすれば、送ってきますのでこれに書いて添付書類を付して、配達記録郵便で送った方が安全と思います。

2 添付書類

- (1) 死亡診断書又は死亡診断書記載事項証明書（市町村役場で取得したもの）
- (2) 戸（除）籍謄本（組合員であった方の死亡年月日が記載されたもの）
- (3) 遺族の方の所得証明書又は非課税証明書（源泉徴収書又は確定申告書の写しの控ではだめ）
- (4) 年金証書（証書を紛失した場合は、便箋等に紛失した旨を記載した申立書を提出）

3 手続き後の遺族年金が入るのは、約2ヶ月後になります。

◎ 遺族厚生年金の手続き

手続きは各地域の社会保険事務所で実施してください。

行く前に準備する書類

- (1) 除籍戸籍謄本
- (2) 住民票(本人、請求者の2人分)
- (3) 年金手帳(本人、申請者)
- (4) 預金通帳(申請者)
- (5) 印鑑
- (6) 死亡診断書の原本(市町村役場で証明したもの)
- (7) 年金証書
- (8) 申請者の年金手帳
- (9) 申請者の所得証明書(市町村役場で発行したもの)
- (10) 共済年金受給者については共済年金証書

（遺族共済年金手続き時にコピーを取っておく）（共済遺族年金受給手続き中の場合は

家族作文 大好

出水支部

私たちのおいちゃん、は76さいで、とてもやさしく明るいせいかくです。妹と私はそんなおじいちゃんが好きです。暑い日も寒い日もお仕事をしなくてもおいしいやさいを作っている。ときどき私と妹もいっしょに手伝います。

三人でも大変なのに毎日一人でするなんて、大変そうだと畑仕事を手



お孫さんと遊園地を楽しむ

日本体育協会 長から表彰

鹿児島地区協議会南支部 付原 光則氏



表彰の盾を手に記念撮影

鹿児島地区協議会南支部の竹原光則さんは、2月10日 自衛隊退職後、鹿児島県銃剣道連盟の役職を務め、15年間にわたり少年選手の発掘と育成に尽力するとともに7年連続の国体出場を果たし、入賞するなど好成績を残した功績により日本体育協会 以前は文部科学省から付与）会長から表彰を受けた。現在も鹿児島県銃剣道連盟会長として活動されている。

記

支部紹介

伊佐支部

伊佐支部隊友会は大口市・菱刈の二地区で32人の会員が所属している。

二ヶ月に一度の定例会のほか総会、役員会等の会合や展示飛行機の周辺整備、学童の見守り、学校行事の支援、スポーツ少年団の指導等を積極的に実施している。今回は新規活動を含め、三点について紹介したい。

一 展示飛行機及び周辺整備

20年以上にわたって行



展示航空機等の整備を実施する会員

国民保護共同 実動訓練に参

2月2日(木)、平成28年度鹿児島県国民保護共同実動訓練が垂水市で開催された。

防衛省、警察、消防、市町村の関係者及び市民約500人が参加して、13時、テロ事案が発生した」との状況で負傷者の救助行動、避難民の避難要領を警察、銃を携行した自衛官の警戒の中、避難バス2台により体育



訓練に参加した会員達

っている活動である。過去においてもそうであったが、今回も南日本新聞及び市報でその活動ぶりが紹介された。

体育の日に実施される市民体育祭に合わせ機体の汚れ落とし、周辺の草刈、遊具の手入れ等を毎回20人近くの会員が2時間近くにわたり実施、きれいな環境で来場者を迎えており、市の担当部署からも毎回感謝の言葉を頂いている。

二 学童の見守り

二地区において、継続して行っているが今回、新たに菱刈校区コミュニティ協議会の『甲学生登校時の挨拶・声かけ運動』に呼応して校区の健全化に寄与すべく当面今年3月までの計画で、月曜日を基準に登校時間に合わせ緊要な場所において

館に避難集合した。避難場所の体育館では小銃を携行した12普連の隊員が周囲を警戒しており、懐かしい感動を覚え思わず、隊員に激励の言葉が出た。

鹿児島県隊友会、本部における状況付与等の担当支援として2人が、そして避難所運営要員として5人、避難住民としてのエキストラに8人、総計17人 垂水支部3人、鹿屋陸・空支部3人、国分・隼人支部5人、鹿児島地区協議会6人)で本訓練を支援した。

訓練は16時に終了し布袋副知事の 世界でテロが頻発しており、実働的な訓練は重要である旨の訓示で、訓練の幕を閉じた。

鹿児島地区協議会 事務局 後藤光一 記

声掛けを実施している。三 伊佐地区災害対策

熊本地震をはじめ全国的に各種の災害が頻発している現状を踏まえ、行政機関において当然取り組んでいけるものの『災害時における自衛隊の活用』についてはあまり表面化しておらず寂しい感がある。

先日、某会員の尽力により、当地区の警備担部隊である12普連重迫中隊長との懇談が実現した。2時間足らずであったが伊佐地区防災に対する今後の部隊活動等について意見交換を実施した初めての試みであったが昼食を摂りながらの有意義な会合であった。中隊

長以下3人はこのあと会員案内のもと市役所を訪れ、市長と面談を行い自衛隊の存在感を示した。

以上紹介したが、最後に先般実施された市議選挙において、県相談役でもある井上文雄会員が、自民党公認として立候補し見事に当選、支部初の市議誕生となったことも申し添えたい。

伊佐支部 事務局 丸田和文 記



警備隊区中隊長との昼食会

四十四年も続

昨年11月号の隊友新聞に、国民の自衛官」と云う見出しで陸・海・空の著しい功績のあった優秀な自衛官を表彰するフジサンケイグループ主催、防衛省協力)とあり、陸自のところに第8通信大隊陸士会とあるではないか、思い当たるところがあり8通S1に問い合わせたところ、ああやっぱり今まで続いているのかと、びっくりするやら、感心するやら。

事の経緯を記しますと昭和45年7月に水難救助訓練で川内市 現在の薩摩川内市)の唐浜海水浴場での出来事です。訓練が終わって隊員達が砂浜で色んなゲームをして楽しんでいた、ゲームの一つのリンボーダンスをしていたところ、いつの間にか2、30人子供達

が珍しそうに近寄って来て、一緒になって遊んだのが、社会福祉法人・児童養護施設 天村報徳学園(薩摩川内市祁答院町)の園児達との交流の始まりでした。

園長先生にご挨拶に伺ったところ、毎年クリスマスには園児達が演芸会をやっていますので、自衛隊さんに来て頂ければ園児達が大変喜ぶと思います。」とのお話があり、その年のクリスマスに第1回目の訪問をしたわけですが、その時の陸士会の出し物は、バンド演奏と空手と銃剣道の形の展示だったと記憶しています。

この行事は私の在任間でてっきり終わったものと思っていましたが、40数年も続いているとは今更ながら驚いています。昨年暮れのクリスマスに学園を訪問し、さつま支部の亀沢、今吉隊友も駆け付けてくれて隊員達と園児達の和気あふれとした賑やかな交流ぶりを見学させてもらいました。

この良き伝統がこれからも受け継がれて行く事を念じながら帰途につきました。 中央支部 岩切康 記

災害協定結

隼人支部は、平成28年11月16日霧島市と大規模災害時における隊友会の協力に関する協定を締結した。先年、国分支部が締結をされており、これをモデルとして、会員の同意を得つつ霧島市の危機管理官等と調整の結果、日の目を見ることのでき、霧島市地区における市民と自衛隊の架け橋としての任務を遂行するための根拠とすることができた。

早速、12月20日桜島火山爆発総合防災訓練(図上)が、鹿児島県庁

において、行なわれたので勉強のため参加した。県隊友会、村山会長以下15人、評価班、状況付与班に分かれて行動した。参加防災機関は、県庁の担当部署、桜島を取り巻く鹿児島、始良、霧島、垂水の四市及び自衛隊、警察、消防、海保、国交省等約22機関が展開し、想定上噴火レベル四(避難準備)からスタートし、レベル五(全島民避難)までを状況付与により各機関の対応要領を演練した。

私は、評価班に所属し関係機関の行動について評価してもらった。所感として、このような訓練は、初めてであったので、現職当時の戦術MMを想定していたが、戦間と災害という対象の相違なのかそのようなものとは大きく異なっていた。結果として、DMATの医師・看護師と消防局日赤担当者との情報交換協同連携は、てきぱきと対応され大変よかった。やはり、平素から実務において、行動しているから沈着・冷静に行動できるのだと思った。

ただ、評価判定基準がないから、標準化されていない。つまり、ベストな対応が不明である。従って評価判定基準に基づく評価要領については、今後の課題と思われる。 石神民男 隼人支部長 記

入隊壮行激励 会に参加

河野鹿児島地協会長

平成29年3月12日ジェイドガーデンパレスにおいて 鹿児島市自衛隊入隊・入校予定者壮行激励会が開催され、来賓として参加した。

壮行激励会は、来賓、高校教諭、家族会役員及び入隊等予定者家族などに

約150人が参加し、入隊(入校)予定者61人を盛大に激励した。始めに主催者を代表して、春田会長が挨拶、次いで入隊・入校予定者が壇上で紹介され、一人一人が決意の言葉を述べた。



激励の挨拶をする

その後来賓祝辞、稲田防衛大臣及び三反園鹿児島県知事からのビデオメッセージの紹介、祝電披露、記念品の贈呈、最後に入隊予定者を代表し、上田芳輝君が謝辞を述べた。

続いて記念撮影、海自鹿屋航空基地 若鷲太鼓による勇壮な太鼓演奏をもって激励し、会食・懇談に移った。

会食の最後に、閉めのこの良き伝統がこれからも受け継がれて行く事を念じながら帰途につきました。 中央支部 岩切康 記

ミサイル艇 入港を歓

始良支部は、平成29年2月6日加治木港に入港した海自ミサイル艇

「おおたか」を加治木支部及び始良市自衛隊家族会の有志と出迎え歓迎した。おたか」は佐世保を母港とし、侵攻する敵の海上兵力や不審船等に対処するため艦対艦ミサイル、速射砲等を装備し、約80km/hの速力を有する機動性、即応性、打撃力に優れた小型高速艇

今回、訓練途上に補給乗員の休養のため寄港しかつ平日でもあり一般公開の予定はなかったが、出迎えた我々のため「おたか」の益田艇長から艇内を案内して頂いた。

今春海自に入隊予定の高校生も見学に来ており乗員から熱く歓待されていた

支部及び家族会から佐藤第3ミサイル艇隊司令に地元焼酎を差し入れし激励した。

始良支部長 宮口修一 記



艇長と歓迎の会員達等

楽しんで
ご冥福を

- ◆国分支部 阿多石 卓
- ◆小嶋 英雅
- ◆諏訪原 益夫
- ◆崎村 久
- ◆鹿児島地協 中間 静雄
- ◆瀬戸内支部 前田 小次郎
- ◆鹿屋(海)支部 増田 三紀夫
- ◆賛助会員 前屋敷 豊

土地・借家のことなら

久保不動産

鹿児島県行政書士会会員
鹿児島県行政書士事務所
FAX 0995-46-4677

(隊友会会員)
国分駐屯地正門前
お気軽に
ご相談下さい

〒899-4322
鹿児島県霧島市国分福島
2丁目10-25

☎0995-46-4677

チビッコ 大会支援

川内駐屯地では、毎年夏休みの土日を利用して1泊2日の「夏休みちびっ子大会」を開催しています。対象は市内の小学1年生から中学3年生までの元気な男女約100人です。



テント設営中のちびっ子達

参加希望は電話で受付けていますが、開始後すぐに定員に達するほどの人気で、毎年参加して

る子供さんもたくさんいます。土曜日の12時に駐屯地に集合し、日曜日の12時に解散します。

大会の内容は、最初に自己紹介、次に自衛官の基本である基本教練を教えます。最初は上手に出

エーション「ミッションゲーム」を行います。様々な課題を班の仲間と一致団結しクリアを目指します。その後寝泊りした天幕を解体し、ビデオ鑑賞、両親に日頃の感謝を手紙に書き集合写真を撮影して解散になります。

次に各人が寝泊りする天幕（テント）を設営します。教官の展示説明後皆で協力して設営します

今年8月5、6日（土日）を予定しますのでたくさんの方の参加をお待ちしております。

2日目は起床後ラジオ体操、ランニングをして朝食を済ませ、グラウンド全面を利用したレクリ

川内駐屯地第8施設大隊 坂本直哉3曹 記

隊員紹介 軟式野球少年団を指導



軟式野球少年団の全員（最後列最左翼が愛甲2曹）

私は現在1空群司令部広報室で勤務しています私の余暇の過ごし方は、少年団（軟式野球）の指導者として、週3日間活動しています。

子供達 小学生32人の指導者として、その育成にあたっては子供達が将来多方面に伸びる心と体の基礎づくりを手助

けすることを念頭においています。まだまだ、勉強中ですが・・・そんな中で今私が感じていることは、子供達の体幹が非常に弱いことです。それは最近インドア派の子供が増え、家で遊ぶゲーム機等に熱中する等、体を使わない生活環境が原因ではないかと考えています。なので一から怪我をしない体づくりを指導しているのが現状です。

また、どの少年団も団員不足に悩まされていると聞きます。少子化が一因でもあります。少年団となると厳しい指導や練習のイメージが強いのではないかと思います。確かに挨拶や礼儀、スポーツマナーに関しては厳しく指導しています。しかし、叱るばかりでは

定年退官に 思う 国分駐屯

自衛隊生活を振り返ってみると、色々なことが走馬灯のように頭の中を駆け巡っています。

昭和56年4月、国分に入隊して以来、35年余りの勤務でありましたが、本当に早く感じるものです。特に印象に残っている平成13年3月（土日）を予定しますのでたくさんの方の参加をお待ちしております。



12普連 斧浩二 陸曹長

始良市入隊 壮行会に参

平成29年3月7日始良市役所において、平成29年始良市自衛隊入隊者壮行会が開催され、本年からは家族会に積極的に働きかけ始良支部から支部長及び副支部長の3人も参加し激励した。

始良市からは6人が入隊する。会には市から笹山始良市長、総務部長、危機管理課長、地本から重信副本部長、家族会から中釜始良市家族会長等が参列し厳粛な雰囲気の中実施された。

壮行会後の茶話会では我々に発言を求められ、入隊時の心構え、魅力あ第1航空群広報室 愛甲則行 2海曹 記

災害ボランティアセンター 設置・運営訓練に参加

の設置運営が円滑に図れることを目的に実施した。

始良支部は12月2日始良市の「災害ボランティアセンター」設置・運営訓練に参加した。

始良市は近年全国各地で大規模災害が発生していることから、本訓練を実施し始良伊佐圏域で災害が起きた時、災害ボランティアセンター（以下「センター」と言う。）

してからもお付き合いを続けてもらっています。それから、自衛隊生活の大半にあたる約21年間、国分で勤務する事が出来ました。この間、良き上司、同僚、後輩等多くの方々のご指導、ご鞭撻があったればこそと感謝いたしております。

最後に、定年後は自衛隊で培った経験を活かして自衛隊OB、一社会人として微力ではありますが少しでも自衛隊に支援が出来れば幸いです。

12普連 斧浩二 陸曹長 記

県下一周駅

喜入支部は、2月18日県下一周対抗駅伝を、指宿市「道の駅」において、堀支部長以下11名で応援した。

当日は喜入前之浜町出身で12普連、鈴東千弘

止のため家族会をサポートするとともに、将来の隊友会会員を育てていきたい。 始良支部長 宮口修一 記



土壌作り・積み技術指導

平成28年5月に防災協定を締結しており積極的に参加した。訓練は市側「湧水町、霧島市、伊佐市も参加」がセンター内各係「ボランティア受付係、ニーズ受付係、マッチング係、オリエンテーション係、避難所調整係、総務係等」に分かれ、仮想ボランティア・避難民役として参加した我々市民の受入・派遣、避難所での避難生活者支援活動について訓練した。

隊友会がセンター運営の一員として訓練する場はなかったが、基本的な

本訓練には加治木支部からも参加し共に活動した。今後も積極的に参加し練習度を上げていきたい。

始良支部 宮口修一 記

選手が郷土での出走であり、隊友会の幟旗2本を立て到着を待った。期待通りトップで到着し割れんばかりの大声援を持って応援した。上り坂だったが幟旗に気づき



喜入出身の鈴東選手を応援する喜入支部会員達

力走に拍車がかかったようだった。参加者は郷土の後輩自衛官の活躍に、心踊る一時を過ごせた事に満足していた。また、昨年末新加入の高木進会員も参加し、支部の団結に寄与した。 副支部長 春田博明 記